

## 13. サークル活動・社会活動について

### Q53 あなたの所属している「大学内サークル」はどれですか〔複数選択可〕

全学的に「入っていない」の回答が25.6%であることから、およそ75%の学生が何かの学内サークルに所属しているということがわかる。サークルへの所属、すなわち「文化会所属のサークル」と「体育会所属のサークル」の合算値が52.3%に対し、同好会への所属、すなわち「文化系の同好会」と「体育系の同好会」の合算値は20.3%であることから、一般に同好会よりもサークルに人気があると判断できる。「文化会所属のサークル」19.4%に対し「体育会所属のサークル」は32.7%であり、「体育会所属のサークル」の方が高い。また同好会についても類似した傾向が感じられることから、文化系よりも体育系に人気があるようである。男子学生の「文化会所属のサークル」と「体育会所属のサークル」との差は20%程度あるのに対して、女子学生のそれは5%と男子学生の差異よりは小さい。よって女子学生は男子学生と比べると文化系を選択する割合が高いと考えられる。女子学生において、同好会は体育系よりも文化系を選択するようである。上記以外のサークル等への加入状況は低く、5%以下であった。

年度において比較すると、2005年に14.4%であった未所属が、2010年度および2015年度には約25%と高くなっている。サークルへの所属意識はやや低下している。文化会所属のサークル、体育会所属のサークル、文化系の同好会、体育系の同好会のいずれも2005年度に比べて2015年度は減少傾向にあるが、特に体育系のサークルおよび同好会の減少幅は約10%とであり、文化系の約5%と比べて大きい。体育離れがやや進んでいるのかもしれない。

表 13-1-a Q53 の集計結果 (全学・男・女別)

	全学	男	女
文化会所属のサークル	19.4	15.0	26.1
体育会所属のサークル	32.7	34.5	31.2
文化系の同好会	9.0	8.2	10.2
体育系の同好会	11.3	13.4	8.6
大学祭実行委員会	1.8	2.2	1.4
その他無届けの同好会	1.7	1.7	1.7
おもしろプロジェクトの団体	2.7	2.3	3.1
その他	3.5	3.8	3.3
入っていない	25.6	28.3	22.6

表 13-1-b Q53 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

	2015年	2010年	2005年	2001年
文化会所属のサークル	19.4	18.5	25.8	-
体育会所属のサークル	32.7	34.5	43.5	-
文化系の同好会	9.0	8.7	13.4	-
体育系の同好会	11.3	10.8	21.1	-
大学祭実行委員会	1.8	-	-	-
その他無届けの同好会	1.7	3.3	-	-
おもしろプロジェクトの団体	2.7	2.7	-	-
その他	3.5	3.1	4.6	5.6
入っていない	25.6	25.8	14.4	20.7

Q53-SQ1<sub>a</sub> あなたの「大学内のサークル」活動状況について、以下a、b、cそれぞれに教えてください

<a 参加状況>複数のサークルに所属している人は、最も時間を費やしているサークル等について教えてください [択一]

サークルへの参加状況は全学で43.4%が「いつも参加する」と回答した。また「だいたい参加する」と回答したものは35.6%であった。両者を合計すると79.0%であり、サークルに加入している学生のおよそ8割は、基本的にそのサークル活動に参加している状況である。サークルへの参加状況に関する男女の違いはそれほど大きくはないが、女子学生のほうが男子学生に比べ「だいたい参加する」を回答している割合がやや高い。

年度において参加状況の推移を比較すると、年度によりわずかな違いは生じているものの、概ね傾向は同じであり、サークルに加入しているおよそ8割の学生がその活動に参加しているようである。

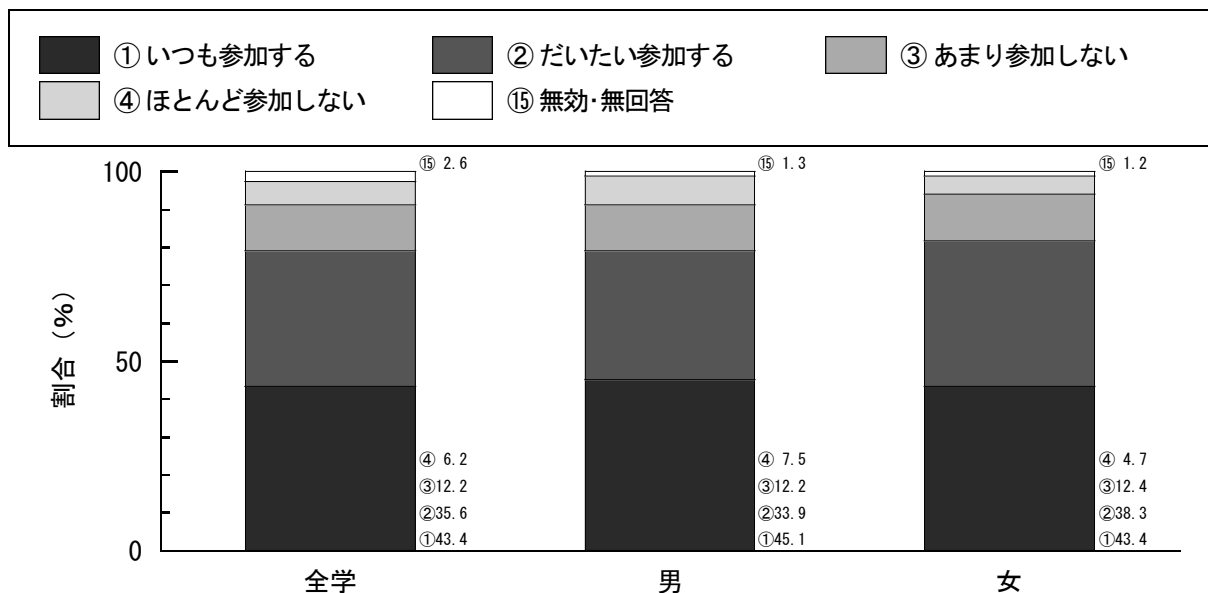


図 13-1-a Q53-SQ1<sub>a</sub>の集計結果 (全学・男・女別)

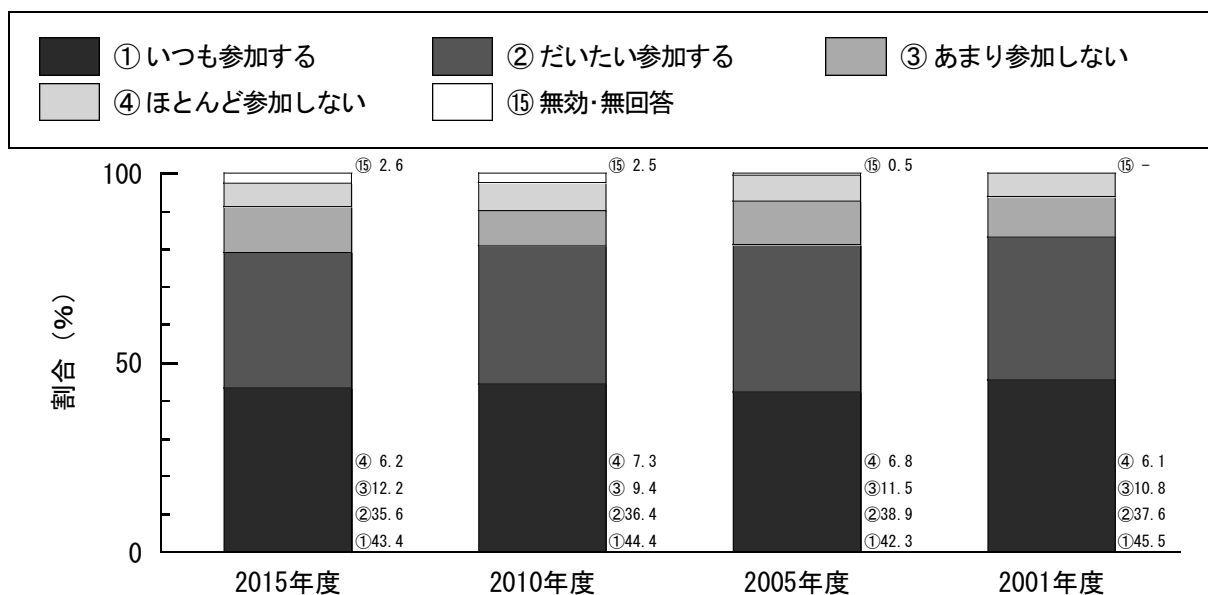


図 13-1-b Q53-SQ1<sub>a</sub>の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q53-SQ1<sub>b</sub> あなたの「大学内のサークル」活動状況について、以下a、b、cそれぞれに教えてください

<b 楽しさ>複数のサークルに所属している人は、最も時間を費やしているサークル等について教えてください [択一]

全学的にみて、「とても楽しい」と回答したのは47.1%、「楽しい」と回答したのは43.8%であった。この両者は肯定的回答でありその合計は90.9%である。すなわちサークル活動に参加している9割の学生が、その活動に楽しさを感じているということである。男女間における違いはほとんどみられない。

年度による違いをみると肯定的回答である「とても楽しい」と「楽しい」の合計値は、2001年度89.4%、2005年度89.7%、2010年度89.4%、2015年度90.9%とそれほど大きな変化はない。一方で「とても楽しい」の回答率の変化をみると2005年度のみ35.9%と非常に低い数値を示している。

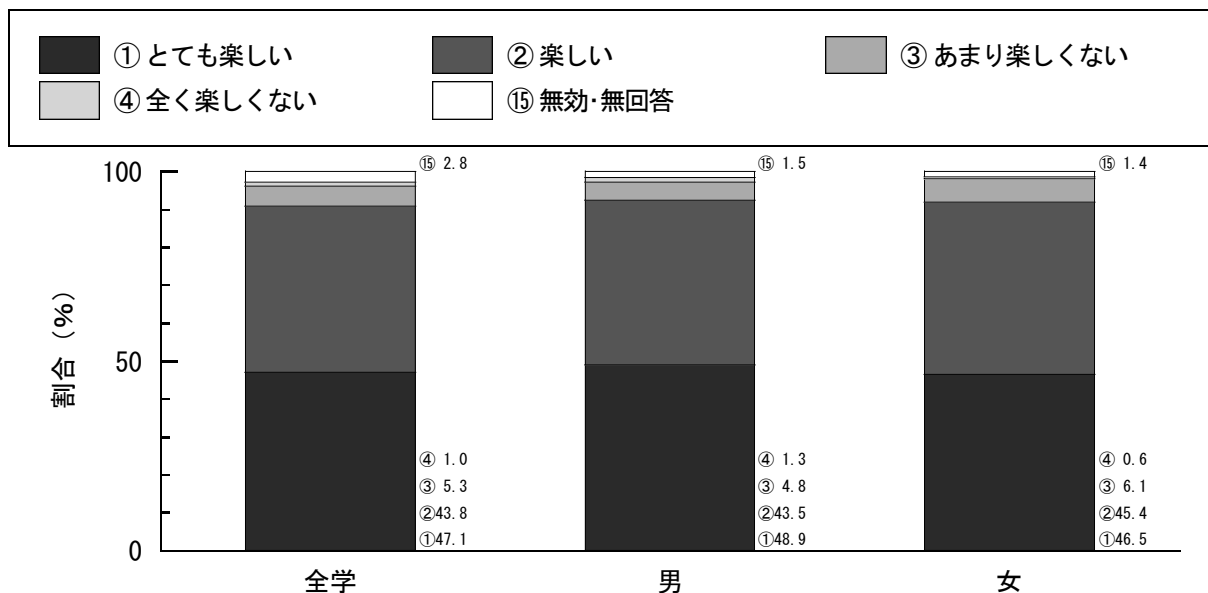


図 13-2-a Q53-SQ1<sub>b</sub>の集計結果 (全学・男・女別)

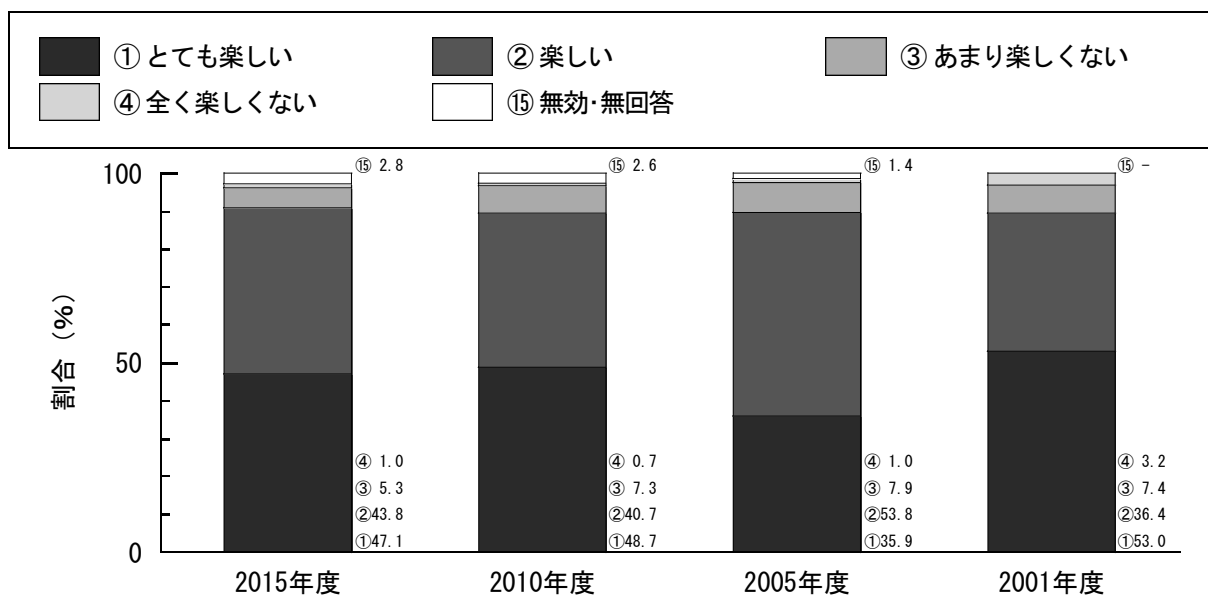


図 13-2-b Q53-SQ1<sub>b</sub>の集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q53-SQ1。あなたの「大学内のサークル」活動状況について、以下a、b、cそれぞれに教えてください  
 <c充実感の有無>複数のサークルに所属している人は、最も時間を費やしているサークル等について教えてください[択一]  
 肯定的意見である「充実感がある」と「やや充実していると思う」の合計値は、全学において 89.4%であり、サークルに所属するほとんどの学生がその活動等に対して充実感を得ていると判断できる。「充実感がある」と回答した学生は 55.9%と半数以上はしっかりと充実感を持っている。男女に関する回答結果に対してその違いはほとんどなかった。

肯定的意見である「充実感がある」と「やや充実していると思う」の合計値に関して、2001年度 84.3%、2005年度 81.9%であったのに対し、2010年度 88.9%、2015年度 89.4%とここ5年間はそれ以前と比べて増加している。「充実感がある」と回答した学生の割合も、2001年度 44.5%、2005年度 42.3%であったのに対し、2010年度 54.9%、2015年度 55.9%と同様に増加している。

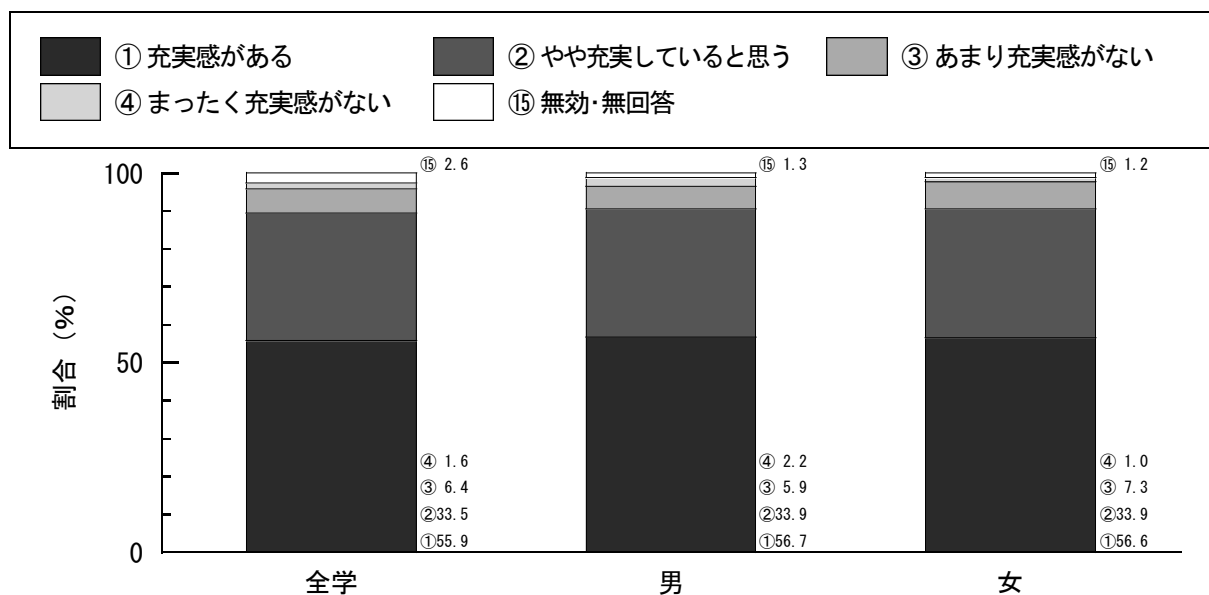


図 13-3-a Q53-SQ1cの集計結果 (全学・男・女別)

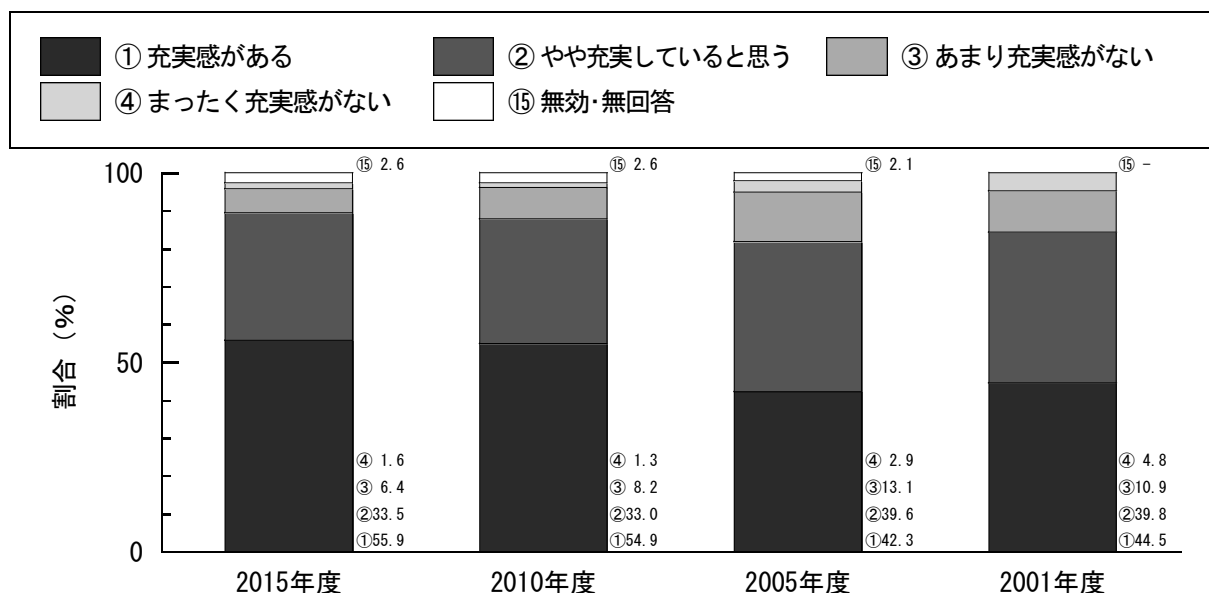


図 13-3-b Q53-SQ1cの集計結果 (全学に関する調査年度別)

Q53-SQ2 「大学内サークル」に現在入っていない理由は何ですか〔複数選択可〕

「時間がない」や「束縛をうけたくない」を選択したものが最も多かった。また「学業に専念したい」や「希望のサークルがない」、「入る機会を失った」もおおよそ2割の回答があった。男子学生や女子学生に関する上位5つも同様の項目であった。男子学生に関しては「時間がない」や「束縛をうけたくない」が全学同様に上位2つであった。一方で女子学生に関しては、「時間がない」、「束縛をうけたくない」、「希望のサークルがない」、「入る機会を失った」はいずれもおおよそ25%となっており、サークルへの未所属の理由は、男女間において若干異なっていることがわかる。

2010年度のデータをみると、「時間がない」や「束縛をうけたくない」が上位2つであることに違いはなく、また上位5つのうちのその他3つに関しても同様に他の項目と比べて高い傾向にあった。基本的にサークルへの未所属理由に関して、この5年間では大きな変化はないと思われる。ただし「時間がない」に関しては2010年度34.6%であったのに対して、2015年度28.1%であるから減少している。

表 13-2-a Q53-SQ2 の集計結果 (全学・男・女別)

	全学	男	女
時間がない	28.1	30.9	24.3
束縛をうけたくない	28.6	30.5	25.0
学業に専念したい	19.7	19.1	19.4
希望のサークルがない	21.0	18.2	25.0
サークルの運営が悪い	3.6	3.4	4.2
経済的余裕がない	11.2	9.7	13.2
入る機会を失った	22.1	18.2	27.1
活動を引退した	12.5	11.9	13.9
学部移ったので活動が難しくなった	7.0	9.7	2.8
その他	10.9	7.6	16.7

表 13-2-b Q53-SQ2 の集計結果 (全学に関する調査年度別)

	2015年度	2010年度	2005年度	2001年度
時間がない	28.1	34.6		
束縛をうけたくない	28.6	26.8		
学業に専念したい	19.7	18.2		
希望のサークルがない	21.0	19.7		
サークルの運営が悪い	3.6	3.5		
経済的余裕がない	11.2	14.4		
入る機会を失った	22.1	24.2		
活動を引退した	12.5	14.1		
学部移ったので活動が難しくなった	7.0	7.8		
その他	10.9	10.6		

### Q54 大学入学後、学内外でボランティア活動をしたことがありますか [択一]

ボランティア活動の経験者である「現在している」と「以前にしたことがある」の合算値は、全学において 31.1% である。また「ボランティア活動にいくらかの興味を持っている」ことを意味する「時間や興味がない」と「無効・無回答」以外の合算値は 70.6%となる。男女で比較すると、「現在している」、「以前にしたことがある」は共に女子学生の方が高く、結果として女子学生の方がボランティア経験者の多い傾向にある。また「ボランティア活動にいくらかの興味を持っている」割合も、男子学生の 62.6%に対し、女子学生は 82.6%と非常に高い。

ボランティア活動の経験者に関して、2005 年度は 20.3%であったものが、2010 年度は 25.1%、2015 年度は 31.1%と徐々に増加傾向にある。またボランティアに興味を持っている割合は、2005 年度 74.4%、2010 年度 67.9%、2015 年度は 70.6%と、2010 年度にやや低い値を示しているが、大きくは変動していない状況である。よって、近年において興味を持った学生は、できるだけ実際に活動してみようと思ひ、そして実行する傾向にあるようだ。

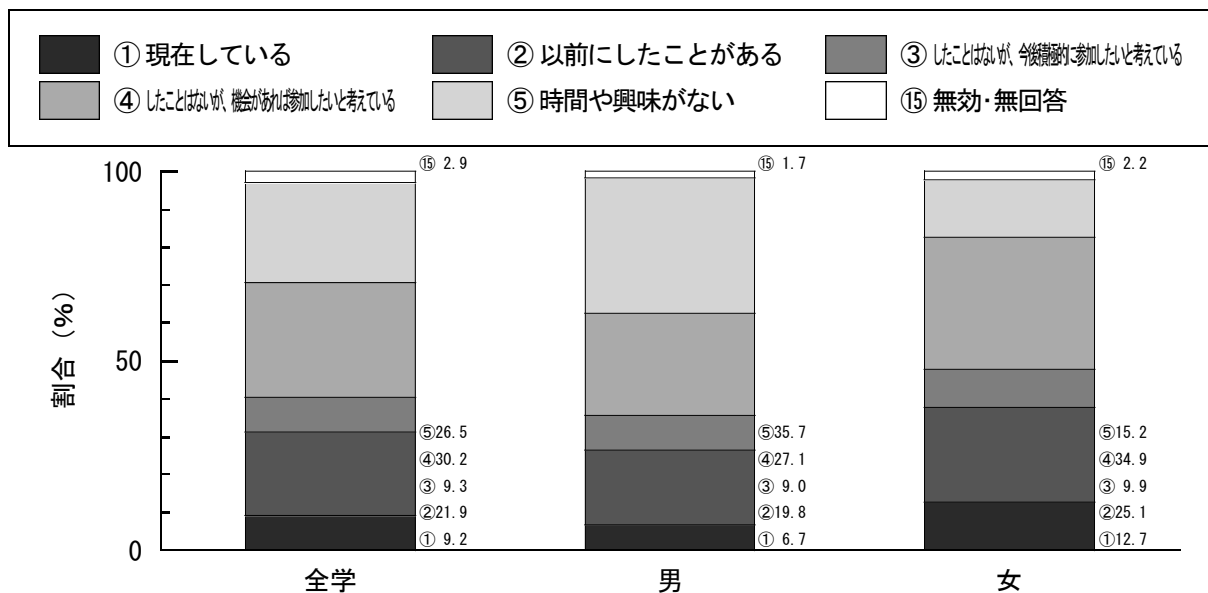


図 13-4-a Q54 の集計結果 (全学・男・女別)

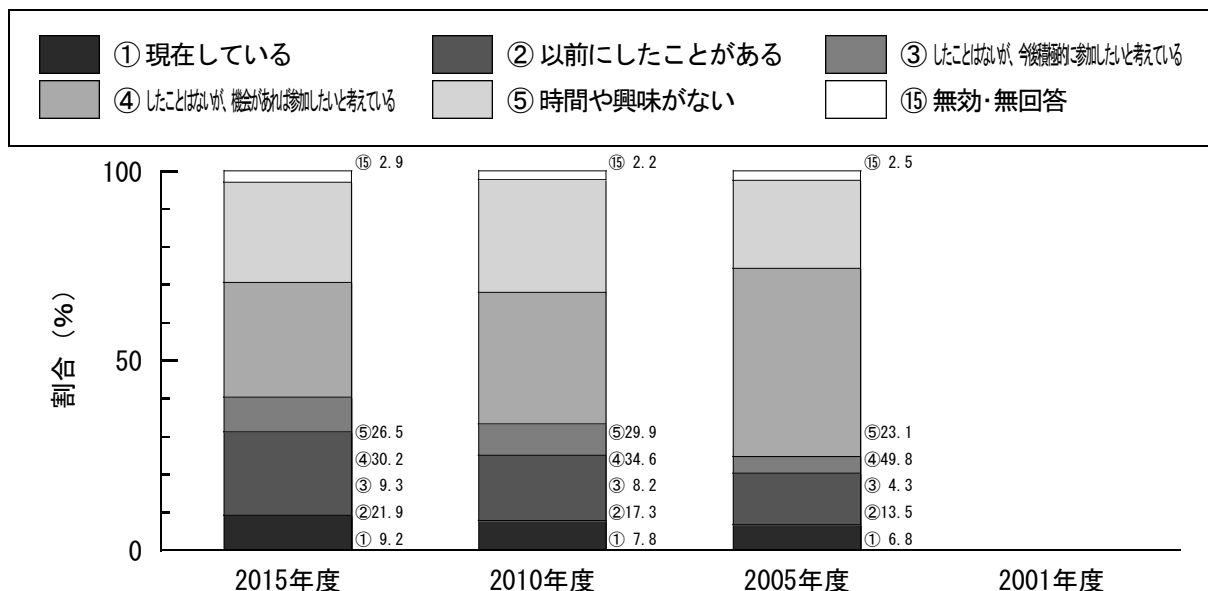


図 13-4-b Q54 の集計結果 (全学に関する調査年度別)